

黄金の郷

こしえるびと

つむぐストーリー vol.126

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。

農業で大東町を元気な町に

大東町大原 宮下 琢さん

実家の農地を守りたい

山々の彩りが新緑から深緑へ変わる6月。大原地区の山あいには立ち並ぶビニールハウスには、作業員と談笑しながらピーマンの葉かきに励む宮下琢さんの姿がある。

高校卒業後は進学のために上京し、そのまま都内で就職したが、家族をめぐるさまざまな出来事が重なり、実家のために帰郷することにした。実家に戻ってからは介護施設で働いたが、家の将来について考えることが多くあり、常に悩みが付きまとう状態だった。中でも一番の懸念だったのは放置していた農地のこと。「このまま何もせず、荒れ地になっていく未来が耐えられなかった」。土地をどうにか有効活用できないかと考えた結果、たどり着いた答えは農業だった。

チャレンジ精神を大事に

就農に向けてワンストップ相談窓口を訪れた琢さん。複数回相談を重ねて受けたアドバイスを参考に、管内のピーマン農家とイチゴ農家で1年間研修を積んだ。「自分がやりたいことの勉強がこんなに楽しいと思わなかった」と振り返る。

2022年に就農を遂げた琢さんは、ピーマンの露地栽培を10アールからスタートさせた。長期にわたり安定した数量を確保し、また、より多く収穫できるように、栽培面積の拡大とハウス栽培での収量増大に挑み続け、現在ではハウス20アール、露地30アールで栽培している。「何事にもチャレンジする」ことをモットーとしている琢さん。「実際にやってみることでは得られないものを大事にしたい」と語る。

楽しく働ける場所をつくる

昨年から作業員を雇用するようになった。人を雇うことへ農作業とは異なる難しさを感じるだけに、使用者として何をすべきかを考えながら過ごしている。特に意識しているのは、働いていて楽しいと感じてもらえるような環境づくり。柔軟な働き方が選べて、皆でたわいない話ができるような職場環境を目指している。

「農業で町ごと元気にしたい」とここにやかに話す琢さん。「人と関わる楽しさ」を農業の魅力の一つに挙げ、ニューツーリズムなどの受け入れにも積極的に取り組む。人とのつながりを増やすことで地域と農業を盛り上げていくビジョンを描く。

笑顔が絶えないハウスの中、琢さんは今日も仲間と共に汗を流す。



PROFILE

宮下 琢さん (38)

Takumi Miyashita

大東町大原

1987年大東町生まれ。地元高校を卒業し進学のため上京、会社勤務を経て帰郷、JA管内の農家で研修を受け、2022年就農。ピーマン50%。両親、子、妹家族と7人暮らし。

